

〔展示作品一覽〕 *…12月15日―17日展示

重要文化財	太刀	銘国綱(名物髭切・鬼切)	京都・北野天満宮蔵	一口*
重要文化財	太刀	銘口忠(名物膝丸・薄縁)	京都・大覚寺蔵	一口
重要文化財	太刀	銘有綱	京都国立博物館蔵	一口
重要文化財	太刀	銘貞綱	京都国立博物館蔵	一口
重要文化財	太刀	菊御作	京都国立博物館蔵	一口
重要文化財	太刀	銘口蘭国則宗(名物二ツ銘則宗)	京都・愛宕神社蔵	一口
重要美術品	短刀	無銘(名物上部當麻)	京都国立博物館蔵	一口
重要文化財	刀	無銘	京都国立博物館蔵	一口
重要文化財	太刀	金象嵌銘水練三年五月十九日義元討捕刻彼所持刀 織田尾張守信長(名物義元左文字)	京都・建勲神社蔵	一口
重要文化財	太刀	銘物部吉貞	京都・豊国神社蔵	一口
重要文化財	太刀	無銘(名物骨喰藤四郎)	京都国立博物館蔵	一口
重要文化財	太刀	銘則国	京都国立博物館蔵	一口
重要文化財	短刀	銘吉光(名物秋田藤四郎)	京都国立博物館蔵	一口
重要文化財	短刀	銘国吉	京都国立博物館蔵	一口
重要文化財	刀	銘吉行 坂本龍馬所用	京都国立博物館蔵	一口
重要文化財	刀	銘栗田口近江守忠綱	京都国立博物館蔵	一口
重要文化財	刀	銘長曾祢虎徹入道興里	京都国立博物館蔵	一口
重要文化財	刀	銘長曾禰興里入道唐徹	京都国立博物館蔵	一口



〔関連土曜講座〕
1月16日(土)
「刀剣を楽しむ―名物刀を中心に―」
講師■末兼俊彦(京都国立博物館研究員)
会場■平成知新館講堂
時間■午後1時30分―午後3時
聴講料■無料(ただし観覧券等が必要です)
※当日12時より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員(200名)になり次第、配布を終了します。
京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM
〒605-0931 京都市東山区茶屋町177
電話075-5251247・2473(テレホンサービス)
<http://www.kyomuse.jp/>

刀 銘長曾祢虎徹入道興里 京都国立博物館蔵 江戸時代 十七世紀

長曾祢興里は越前国出身の甲冑鍛冶で、人生の半ばを過ぎてから一念発起し、江戸に出て刀専門の鍛冶師となりました。通称で用いられる「虎徹」とは興里の号です。この刀は「虎」の字の最終画がまるで虎の尻尾のように跳ね上がっているので「ハネトラ」と呼ばれる、興里前期の作です。

◆全長 94・8
◆茎長 21・2
◆鋒長 2・9
◆刃長 73・7
◆元幅 3・16
◆先幅 2・06
◆反り 0・97
◆元重 0・64
◆元重 0・64
◆先重 0・42

刀 銘吉行 坂本龍馬所用 京都国立博物館蔵 江戸時代 十七世紀

陸奥国出身の吉行は、京都・三品派の流れをくむ大阪の名人、大和守吉道の弟子です。吉行は後に土佐に移住し、四国随一の刀鍛冶となりました。武芸にも秀でた龍馬が、兄に請うて譲り受けた坂本家伝来の家宝がこの刀です。

◆全長 92・7
◆茎長 21・5
◆鋒長 3・1
◆刃長 71・1
◆元幅 3・1
◆先幅 2・2
◆反り 0・15
◆元重 0・7
◆元重 0・7
◆先重 0・5

重要文化財 太刀 銘口蘭国則宗(名物二ツ銘則宗) 京都・愛宕神社蔵 鎌倉時代 十三世紀

足利尊氏所持と伝わる足利將軍家の宝刀です。現在では銘の最初の二文字が読みにくくなっていますが、「享保名物帳」には「備前国則宗」と記されています。備前国一文字派の祖・則宗の作として最も名高い一口です。

◆全長 100・0
◆茎長 20・2
◆鋒長 3・0
◆刃長 80・1
◆元幅 2・99
◆先幅 1・85
◆反り 2・3
◆元重 0・63
◆元重 0・63
◆先重 0・37

重要文化財 太刀 菊御作 京都国立博物館蔵 鎌倉時代 十三世紀

壇ノ浦の合戦で草薙の剣が失われ、皇位継承の象徴である三種の神器が揃わないまま即位した後鳥羽天皇は、そのコンプレックスからか無類の刀剣愛好家となりました。そしてついには自らの手で刀を打つほどになったと伝えられています。この太刀はそれら「菊御作」の中で最も古様で、山城風の強い作品です。鐔の部分には十二弁の菊花紋が刻まれており、菊の御紋のはじまりと考えられています。

◆全長 96・1
◆茎長 18・5
◆鋒長 2・0
◆刃長 77・8
◆元幅 2・81
◆先幅 1・52
◆反り 2・3
◆元重 0・55
◆元重 0・55
◆先重 0・29

この特集陳列では、京都の古社寺に伝来した名物刀剣の全てを一挙公開し、数奇な運命に翻弄されながらも時代を生き抜いた名刀の数々を紹介いたします。史上初となる、源氏一門の重宝「髭切」(「太刀」銘国綱) 北野天満宮蔵)と「膝丸」(「太刀」銘口忠)大覚寺蔵)の同時展示をはじめとし、後鳥羽上皇が御自ら手がけたとされる太刀「菊御作」(斬りつけた真似をするだけで相手の骨が砕けるといふ伝説を持つ「骨喰藤四郎」(「薙刀直シ刀」豊国神社蔵)、桶狭間の戦いで織田信長が得た「義元左文字」(「刀」建勲神社蔵)、坂本龍馬の愛刀「刀」銘吉行)など、ドラマティックな歴史を持つ名刀の数々をご紹介します。作品に秘められた歴史とあわせて、奥深い刀剣の美の世界をお楽しみください。



特集陳列 **刀剣を楽しむ** ―名物刀を中心に―

2015年12月15日(火)―2016年2月21日(日)
京都国立博物館 平成知新館 特別展示室(1F)

重要文化財 **薙刀直シ刀 無銘(名物骨喰藤四郎)** 京都・豊国神社蔵 鎌倉時代 十三世紀 (12月15日―1月17日展示)

骨喰ほねくという名は、斬りつける振りだけで相手の骨まで砕くという逸話から生まれたものです。藤四郎は栗田口派の刀工・吉光の通称で、豊臣秀吉より「天下の三名工」と称されました。「二ツ銘則宗」とともに尊氏所持の伝承を持つ足利將軍家屈指の名刀です。主を変え、姿を変え、八百年を生き抜き、今に至りました。

重要文化財 **短刀 銘吉光(名物秋田藤四郎)** 鎌倉時代 十三世紀

豊臣秀吉に使えた秋田城介(秋田実季)が所持したことになみ、「秋田藤四郎」と呼ばれます。肌はやや肌立つ板目肌。刃文は腰元に腰刃風の小互目を少し焼いた細直刃で、吉光の作風をよくあらわしています。表に種字と利剣、裏に護摩箸を刻んでいるのは、不動明王の加護で所有者を護持することを願ったものです。

重要文化財 **太刀 銘国綱(名物髭切・鬼切)** 京都・北野天満宮蔵 鎌倉時代 十三世紀 (12月15日―1月17日展示)

源氏重代(先祖伝来の宝物)の宝刀の一つ。罪人の頸を刎れたところ、あまりの斬味から髭まで断つたため「髭切」の名がつけられました。後に、一条戻橋の鬼の腕を落としたという伝承から「鬼切」とも呼ばれ、さまざまなエピソードとともに語られる刀です。

重要文化財 **太刀 銘口忠(名物膝丸・薄緑)** 京都・大覚寺蔵 鎌倉時代 十三世紀

「髭切」とともに、源氏重代の宝刀として伝えられた一口です。罪人で試し切りをした際、両膝まで切り落としたという逸話から「膝丸」と呼ばれますが、「平家物語」の義経のエピソードになみ「薄緑」とも称されます。この二口が同時に展示されるのは本展が初となります。

重要文化財 **刀 金象嵌銘水禄三年五月十九日義元討捕刻彼所持刀**

九州を代表する名工・左文字の逸品。桶狭間の戦いに勝利した織田信長が戦利品として手に入れた刀で、茎の表裏に金で象嵌銘が刻まれています。信長の死後は秀吉の手にわたり、その後徳川將軍家の重宝として代々受け継がれてきました。信長・秀吉・家康という天下人が携えた名刀です。

重要美術品 **短刀 無銘(名物上部當麻)** 鎌倉時代 十三世紀

南都七大寺をはじめ、多くの社寺が存在する大和国は、平安時代以降いち早く大規模な日本刀の生産が始まった地でした。この短刀は別名を「桑山當麻」と言い、奈良・當麻寺に属した刀工集団當麻派の名品で、「享保名物帳」に記載されている「上部當麻」二口のうちの一つです。

◆全長 74・2
◆茎長 15・3
◆刃長 58・7
◆元幅 3・46
◆先幅 2・37
◆反り 1・42
◆元重 0・92
◆先重 0・1



◆全長 32・3
◆茎長 9・8
◆刃長 22・4
◆元幅 19・7
◆先幅 12・7
◆元重 0・5
◆先重 0・32



◆全長 108・4
◆茎長 24・5
◆刃長 84・4
◆元幅 3・4
◆先幅 2・0
◆反り 3・6
◆元重 0・7
◆先重 0・58



◆全長 109・4
◆茎長 22・0
◆刃長 87・6
◆元幅 3・40
◆先幅 2・06
◆反り 3・72
◆元重 0・83
◆先重 0・48



◆全長 83・5
◆茎長 16・6
◆刃長 66・9
◆元幅 3・22
◆先幅 2・22
◆反り 1・56
◆元重 0・62
◆先重 0・42



◆全長 35・9
◆茎長 10・7
◆刃長 25・3
◆元幅 2・55
◆先幅 1・81
◆元重 0・69
◆先重 0・49

